

病弱

- (1) 個々の児童生徒の学習状況や病気の状態、授業時数の制約等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くとともに、指導内容の連続性に配慮した工夫を行ったり、各教科等相互の関連を図ったりして、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (2) 健康状態の維持や管理、改善に関する内容の指導に当たっては、自己理解を深めながら学びに向かう力を高めるために、自立活動における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。
- (3) 体験的な活動を伴う内容の指導に当たっては、児童生徒の病気の状態や学習環境に応じて、間接体験や疑似体験、仮想体験等を取り入れるなど、指導方法を工夫し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (4) 児童生徒の身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- (5) 児童生徒の病気の状態等を考慮し、学習活動が負担過重となる又は必要以上に制限することがないようにすること。
- (6) 病気のため、姿勢の保持や長時間の学習活動が困難な児童生徒については、姿勢の変換や適切な休養の確保などに留意すること。

可能な範囲で通常の学級の子どもと、直接的又は間接的に活動をともにする機会を積極的に設けていきたいと考えています。体調により登校できない場合にも、友達と活動をともにすることができる授業を考えています。



病弱・身体虚弱 小学校

遠隔授業で工場見学

<p>社会</p>	<p>社会</p>
<p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調により登校できない日がある ・コミュニケーションが苦手で自分から気持ちや考えを発信することが少ない 	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりたくさんの人に利用してもらうため施設がどんな工夫をしているのかを知る
<p>実践</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="153 1503 1029 1624" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>準備するもの パソコン、パソコンにカメラが内蔵されていない場合はWebカメラ、大型モニター、タブレットPC、マイク</p> </div> <div data-bbox="1053 1478 1428 1624" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; color: blue;"> <p>児童が見学できない場所や立ち入りが制限されている場所の見学も可能になる</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童がいる場所（病院・自宅など）と交流学級の教室と学校外施設の3カ所を同時につないで、バーチャル社会見学（間接体験）を実施する ・タブレットPCを通じて、児童が施設内部を見学し、あらかじめ考えていた質問や見学を通して知りたいと思ったことを工場担当者に尋ねる 	
<p>担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院などで学びの空白があったり、体調の変化などで行事と一緒に参加できなかったりする場合においても、児童が授業に参加でき、興味や関心を広げることができるようにする ・他の教科においても、ICTを活用することで、児童がタブレットPC等の機器の操作に熟達し、自分にとって必要な機能を選び使いこなすことができる力を育てる ・学習時間に制約等がある場合、基礎的・基本的な事柄を習得させる視点から指導内容を精選する ・授業中、児童が自分の体調を把握し、必要に応じて休養をとることができるようにする 	



視覚障害

- (1) 児童生徒が聴覚、触覚及び保有する視覚などを十分に活用して、具体的な事物・事象や動作と言葉とを結び付けて、的確な概念の形成を図り、言葉を正しく理解し活用できるようにすること。
- (2) 児童生徒の視覚障害の状態等に応じて、点字又は普通の文字の読み書きを系統的に指導し、習熟させること。なお、点字を常用して学習する児童生徒に対しても、漢字・漢語の理解を促すため、児童生徒の発達の段階等に応じて適切な指導が行われるようにすること。
- (3) 児童生徒の視覚障害の状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項から着実に習得できるよう指導すること。
- (4) 視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、触覚教材、拡大教材及び音声教材等各種教材の効果的な活用を通して、児童生徒が容易に情報を収集・整理し、主体的な学習ができるようにするなど、児童生徒の視覚障害の状態等を考慮した指導方法を工夫すること。
- (5) 児童生徒が場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮することで、空間や時間の概念を養い、見通しをもって意欲的な学習活動を展開できるようにすること。



指導形態、指導方法等を弾力的に考えることが大切です。視覚を中心とするのか視覚以外の感覚を中心として学習を行うのか、読み書きの速さほどの程度かなどの実態把握が必要です。視力などの視機能障害の程度だけでは判断できない場合も少なくないので、実態に応じて慎重に検討します。

弱視 小学校

どちらが長い？

<p>算数</p> <p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大教科書を使用 ・単眼鏡を使用 ・物の整理が苦手 	<p>算数</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接比較の方法で長さを比べることができる
<p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長さの比べ方を考えよう <ul style="list-style-type: none"> 鉛筆を比べよう…「下に合わせる」という言葉と合わせる基準をはっきりさせる ひもを比べよう…基準となる線に合わせる時に、ひもを伸ばすくっつける、並べるなど、自分で実際に操作しながら比べる モールを比べよう…基準となる線に合わせる時に、モールを広げる、伸ばす、並べるなど、実際に操作しながら比べる <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>この線が基準になる</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: right;"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>ものの長さを直接比べるポイントとして、一方の端を揃えたり、曲がっているものはまっすぐに伸ばしたりすることなどを理解できるようにする</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>授業中も、日常生活でもできるだけ指示語を使わないで話すことを意識する</p> </div> </div>	
<p>担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「下とは何か」「合わせるとはどういうことか」など、言葉が表す概念と実際の活動が結び付くように題材を考える ・空間概念を養うために、自分の身体を基準とした上下・前後・左右などの位置関係を把握する力を育てる ・児童が考える時間、試す時間、自分なりに解決できる時間を確保し、達成感や成就感を得られるようにする ・授業の流れや活動の手順を設定したり、活動の最初から最後までを通して体験できるようにしたりして、時間の概念を養う 	

聴覚障害

- (1) 体験的な活動を通して、学習の基盤となる語句などについての的確な言語概念の形成を図り、児童生徒の発達に応じた思考力の育成に努めること。
- (2) 児童生徒の言語発達の程度に応じて、主体的に読書に親しんだり、書いて表現したりする態度を養うよう工夫すること。
- (3) 児童生徒の聴覚障害の状態等に応じて、音声、文字、手話、指文字等を適切に活用して、発表や児童生徒同士の話し合いなどの学習活動を積極的に取り入れ、的確な意思の相互伝達が行われるよう指導方法を工夫すること。
- (4) 児童生徒の聴覚障害の状態等に応じて、補聴器や人工内耳等の利用により、児童生徒の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (5) 児童生徒の言語概念や読み書きの力などに応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くなど指導を工夫すること。
- (6) 視覚的に情報を獲得しやすい教材・教具やその活用方法等を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

保有する聴覚を活用することと、子どもの具体的な経験等に照らし合わせて、語句の意味理解を促進し、思考へと発展させることが大切で、担任としては、子ども自身が言葉の楽しさを感じられる授業を心掛けています。



難聴 小学校

なんて言っているのかな？

<p>自立活動</p>	<p>自立活動</p>
<p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中度感音難聴で補聴器装着 ・分かりやすい言葉ならイメージをしながら理解でき、自分なりの言葉で伝えようとする 	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の場面に合わせて、登場人物の言葉を考えることができる ・文に書かれていない心情や言葉を考えることができる
<p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おおきなかぶ」の登場人物の台詞や気持ちを考える かぶが抜けなかったときの登場人物の気持ちを考える 「よびました」のところは具体的にどう呼んだのかを考える みんなが考えた台詞を用いて劇遊びを楽しむ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="279 1568 470 1691" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="486 1523 869 1702" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>おばあさんが「いったこと」 まごの「いったこと」 犬の「いったこと」 ねこの「いったこと」 ねずみの「いったこと」</p> </div> <div data-bbox="965 1355 1404 1444" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>意味理解ができているか、確認することが大切</p> </div> <div data-bbox="901 1500 1404 1668" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>話す、書く、手話、パソコン入力、ICTの活用で、発表や話し合いの場面で表現する力を身に付ける</p> </div> </div>	
<p>担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害のある児童は、文に表現されていない行間を理解することが難しいこともある。そのため、児童が経験してきたことや知識と照らし合わせながら、文に表現されていない状況をイメージし、それを言葉で表現する活動を取り入れる ・登場人物の気持ちを推測する場面を意図的に設ける ・児童が話し言葉と書き言葉の違いを理解したり、関係性を踏まえた会話（言葉遣い）を意識したりすることができるようにする ・授業の開始前に、児童の補聴器を用いて実際に音声を聞いてみるなどして、補聴器が適切に作動しているかを確認する 	



「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」（平成 25 年 10 月 4 日）によると、自閉症・情緒障害特別支援学級の対象の児童生徒は以下のように書かれています。

- 一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のも
- 二 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のも



自閉症・情緒障害特別支援学級では、人との関わりを円滑にし、生活する力を育てることを目標に指導を進めています。担任として、日常生活習慣の形成のための指導と人に関わるための指導の中から、情緒を安定し、友達や教職員と一緒に活動する喜びや楽しさを味わうような学習活動となるように心掛けています。どんな授業をつくらうかと考えるのは、担任の醍醐味でもあります。





自閉症・情緒障害 小学校

集団で活動しよう

<p>自立活動</p>	<p>自立活動</p>
<p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で自分の気持ちを表現することが苦手だが、少人数なら表現することができる 	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～したい」気持ちを表現する ・友達の意見を聞く ・グループ内で話し合い、物事を決める
<p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年から6年までの縦割り班で活動する <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="151 1467 813 1848" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>例えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゲームをしよう ○季節の壁面飾りを作ろう ○近くの公園で遊ぼう ○遊びコーナーを作ろう 企画や運営をする ○遠足に行こう 相談して決める (班員、行き先や交通手段、ルール、係活動、持ち物) 作成する (しおり、まとめの新聞) </div> <div data-bbox="694 1534 901 1713" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1029 1332 1428 1422" style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>できることは自分で できないことはHELP発信を</p> </div> <div data-bbox="646 1377 1013 1467" style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>低学年は高学年への憧れ 高学年は低学年への思いやり</p> </div> <div data-bbox="1013 1500 1428 1825" style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>集団でゲームをするときの約束</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1.ゲームは負けることもある。</p> <p>2.ルールを守る。</p> <p>3.ずるをしない。(ほら1回1枚)</p> <p>4.負けはさわがない。</p> <p>5.最後までやる</p> </div> </div> </div>	
<p>担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が周りの人とのコミュニケーションをとりながら、折り合いを付けられるようにする ・挨拶、言葉遣い、約束など、将来を見据えて必要な力を付けられるようにする ・力を合わせないとできない活動や、複数で行う方が楽しくなる活動を取り入れる 	

自立活動	自立活動
実態	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・勝ち負けにこだわり、負けたときは泣いて友達とトラブルになる ・視覚的な支援があるとルールを理解できる ・黒板を写すとき、どこを見ていいか混乱する 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝っても負けても最後までゲームができる ・友達と交代してゲームを楽しむことができる ・ルールを意識して身体を動かす ・見る力を高める
実践	
<ul style="list-style-type: none"> ・サーキットゲーム 手型や足型の指示を合わせて一周する 友達の活動を応援し、良いところを伝える ペアで協力してサーキットを回る 	 <p>視覚的に分かりやすい教材を使ってコースを設定する</p>
<p>はみ出さない、設定時間に合わせてゴールする等、ルールを変更する ペアのときにバランスボールを体ではさんだり、手をつないだりしてお互いの動きを感じながら活動する 「どんまい!」「次があるよ!」とお互いに声かけをし合うことができるようにする</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ころころキャッチ（机の端から転がしたボールを受ける） ボールの大きさや個数を変える 片手・両手・道具を変えて難易度を変化させながら取り組む 	 <p>目と手の協応の力を付ける取組をする</p>
担任の願い	
<ul style="list-style-type: none"> ・コースやルールを児童自身が決めることで、モチベーションの向上とチャレンジしたい気持ちを育む ・興味のある題材やストーリー性をもたせて、児童自ら注目する力を付けられるようにする 	

自立活動	自立活動
実態	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・失敗経験が多く自己肯定感が低い ・自分の状態や気持ちに気がつくにくく、表現が苦手 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意・不得意を知る ・適切な方法を見つけて成功する経験を積み重ねる
実践	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が「できる」「分かる」方法を知る 伝言の場面・テスト勉強の仕方や予定の立て方 読みやすいフォントやポイント数 ・自分の不得意を知り、必要な事柄は他者に依頼する 見通しが必要…「次の予定を教えてください」 その場で質問するのは難しい…事前に質問事項を書いて「教えてください」 聴覚的な苦手さがある…「ゆっくり話してほしいです」、「紙に書いてください」 ・自分の状態を分かり、担任との約束のもとリラックスルームへ行く ・自分の気持ちを教員に伝えることができる 	 <p>メモをとりやすいのはどのタイミング？</p> <p>僕は話を聞き終わってからメモをとる方がいい</p>
<p>どこに行くのか、どうなれば戻ってくるのか、何を教員に知ってもらいたいのかなど、自分の思いを表現できる方法を準備しておく</p>	
担任の願い	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身ができないと思わず、自分に合った方法を見付ければ「できる」という自己理解や自己決定ができるようにする ・生徒が自分の状態や気持ちについて理解することができるとともに、人に伝えることができ、分かってもらえたという経験が積めるようにする 	

引用・参考文献

- (1) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（平成 21 年 9 月）『特別支援教育の基礎・基本』
- (2) 心のバリアフリー学習推進会議（平成 30 年）『学校における交流及び共同学習の推進について～「心のバリアフリー」の実現に向けて～』
- (3) 文部科学省（平成 19 年 4 月）『特別支援教育の推進について（通知）』
- (4) 文部科学省（平成 19 年 4 月）『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』
- (5) 文部科学省（平成 24 年 7 月）『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』
- (6) 文部科学省初等中等教育局長（平成 25 年 10 月 4 日）『障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）』
- (7) 文部科学省（平成 25 年 10 月）『教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～』
- (8) 文部科学省（平成 28 年 1 月）『発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～』
- (9) 文部科学省『平成 29 年度小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）における文部科学省説明資料』
- (10) 文部科学省『幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領の改定のポイント』
- (11) 文部科学省（平成 31 年 3 月）『交流及び共同学習ガイド』
- (12) 文部科学省（令和元年 6 月）『教科書制度の概要』
- (13) 文部科学省（平成 30 年）『特別支援教育 夏』
- (14) 文部科学省（平成 29 年 4 月）『小学校学習指導要領』
- (15) 文部科学省（平成 29 年 3 月）『小学校学習指導要領解説 総則編』
- (16) 文部科学省（平成 29 年 7 月）『小学校学習指導要領解説 国語編』
- (17) 文部科学省（平成 29 年 6 月）『中学校学習指導要領』
- (18) 文部科学省（平成 29 年 3 月）『中学校学習指導要領解説 総則編』
- (19) 文部科学省（平成 29 年 7 月）『中学校学習指導要領解説 保健体育編』
- (20) 文部科学省（平成 29 年 3 月）『特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領』
- (21) 文部科学省（平成 30 年 3 月）『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』
- (22) 文部科学省（平成 30 年 3 月）『特別支援学校教育要領、学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』
- (23) 奈良県教育委員会事務局学校教育課長（令和 2 年 1 月 31 日）『令和 2 年度奈良県公立高等学校及び県立高等養護学校の入学者に関する生徒指導要録の抄本又は写し及び健康診断票等の提出について（通知）』

特別支援学級の実践をお話いただいた先生方（敬称略、五十音順、令和 2 年 3 月現在）

岡田 恵未	（奈良市立鳥見小学校）	岡本 恵子	（曽爾村立曽爾中学校）
岡本 卓也	（奈良市立都南中学校）	岡本真由美	（吉野町立吉野小学校）
小川 奈美	（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）	金井 京子	（高田市立片塩中学校）
杉本 晴美	（桜井市立桜井小学校）	中西 通剛	（奈良市立鳥見小学校）
中山 永章	（高田市立片塩中学校）	前尾 博美	（奈良市立都南中学校）
松田 祐子	（橿原市立真菅小学校）	松村 静雄	（生駒市立生駒小学校）
山本 光代	（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）	吉田 貴宏	（曽爾村立曽爾中学校）
脇本 卓美	（特別支援教育巡回アドバイザー）	大塚いずみ	（特別支援教育巡回アドバイザー）

特別支援学級教育課程ハンドブック

令和2年3月 発行

編集・発行 奈良県立教育研究所
特別支援教育部

〒636-0393 奈良県磯城郡田原本町多722
奈良県総合リハビリテーションセンター2階
TEL：0744-32-8201



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルフォントを採用しています